

3月 9日(日) ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 4章1節～11節 (新約 4頁)

メッセージ 「荒れ野の誘惑」

すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」 (マタイによる福音書 4章10節)

(1) 3月5日(水)からレントに入りました。日本基督教団ではこのレントの期間を「復活前」と呼んでいます。本日の聖書日課に従ってレントの由来である「荒れ野の誘惑」の記事へと思いを寄せましょう。

(2) イエス様は悪魔から誘惑を受けるため、聖霊によって荒れ野へと連れて行かれました。イエス様は荒れ野で40日間断食をされ、空腹を覚えます。するとイエス様のもとに誘惑して試みる者、悪魔がやってきます。そしてイエス様に「神の子なら、これらの石がパンになるよう命じたらどうだ」(3節)と言って試みます。しかし、イエス様はその言葉を退けます。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある」(4節)。申命記3章8節の言葉です。飢えた者を生かすのは目の前の石をパンに変える奇跡ではありません。神の言葉への信頼が無ければ、仮にパンがあったとしても再び人は飢えることでしょう。

すると悪魔は、イエス様をエルサレム神殿の上に連れて行きます。そして屋根の端に立たせるところ言います。

「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある」(6節)。先ほどイエス様が、聖書の言葉を引いて断ったためでしょうか、今度は聖書の言葉、詩編91編11節～12節によって試みます。ところがイエス様は、別の箇所言葉、申命記6章16

節の言葉によって試みを退けます。「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」(7節)。神を信頼するなら試す必要はありません。聖書の言葉に関してはイエス様の方が一枚うわてです。

すると今度は、悪魔はイエス様を非常に高い山に連れて行きます。そこから繁栄した町を見下ろさせるところ試みます。「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」(9節)。悪魔が最も欲している答え、それは自分を神としてあがめることです。その見返りにこの町を全てお前にやると持ちかけます。ところがイエス様は悪魔に退散するよう命じると共に、申命記6章13節の言葉によって悪魔の提案を退けます。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある」(10節)。

悪魔は離れ去り、神の使いがイエス様のもとにやってきてイエス様に仕えました。

(3) 悪魔の提案は、神と隣人と共に生きることよりも、この世の富や名声、権力を自分のものにするものを選ぶ者にとっては魅力的な提案であると思います。新約聖書の時代ならば、聖書の神よりもローマ皇帝に仕える事を選ぶ者たちは、この悪魔の提案に乗ったことでしょう。

それだけで無く、この試みる者は庶民である私たちの内側にもやってきて私たちを試みます。イエスの「退け、サタン」との言葉が、私たちの心に響いていることに気付かされる、そんなレントの歩みでありたいと願っています。(多田玲一牧師)